

SUMH News Letter

精神科外来診療拡大ークラーン病院での外来診療を開始

理事長 青木 勉

会員の皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。SUMH は、現地からの強い要請を受けて、2013 年 7 月よりシェムリアップ州クララーン病院で、外来診療を開始しました。これで、当会が行なっているカンボジアでの外来診療は、アンコールチュム病院と併せて 2 つとなります。すでに、クララーン病院では、2013 年 10 月の実績で 1 日あたり 30 名を越える患者様を診察しております。これもひとえに、会員の皆様方の厚い御支援の賜物と深く感謝いたします。

理事会にも、新たにメンバーが参加して下さるようになり、少しずつではありますが会の活動が広がりを見せてています。今後も変わらぬ御支援をいただきますように、よろしく御願い致します。

今号ではカンボジアの近況についてご報告してくださった、SUMH監事の松尾智美さんと精神科医の吉田尚史先生からの寄稿をお届けします。

I カンボジア渡航期～2013年2月～

SUMH監事 松尾智美

編集後記

篠原慶朗

Ⅱ カンボジア精神保健について—プノンペンを中心に

精神科医 吉田尚史先生

「カンボジア渡航記～2013年2月～」

SUMH 監事 松尾智美

今年の2月、カンボジアに行きました。学生のころに初めて渡航してから10数年が経過し、今回は10数回目となったカンボジア。これまで大学院の研究調査を主な目的として行っていたのですが、今回は初めて観光メインでカンボジアを見て回りました。

初日から驚いたのは、夜まで燐々と輝くネオン街があちらこちらで見られました。お店で並べられている品物も、とてもきれいなものばかりで、タイやベトナムで見たようなものが多くありました。

10数年前は、夜になると停電が何度も起こって毎

発行:途上国の精神保健を支えるネットワーク
Supporters for Mental Health; SUMH



2013年（平成25年）11月30日（原則的に季刊）た感じに様変わりしていました。この写真は、街の中心部オールドマーケットの近くです。多くの観光客が明け方まで飲み明かしていました。こうしたところからも、カンボジアはずいぶん発展したんだなとしみじみ感じました。そして一抹の寂しさ・・・。初めて渡航した時には「田舎」という言葉が妙に似合う土地で、それが大好きでした。そして今は都会そのもの！まるで初恋の相手に久しぶりに会って、以前と違う姿にショックを受けたような感じでした（笑）。いつまでも昔のカンボジアでいてほしいと思うのは、私のエゴでしょうね。

さて、今回の滞在中にSUMHの事務所を訪れ、現地代表のピサルさんにもお会いし、デイケアを見学してきました。この下の写真の黄色い花、きれいではありませんか？実はこれ、紙で作った作品なのです。もう一枚下の写真の中央の女性が、作り方をメンバーに教えていますが、紙や割りばし、輪ゴムなど身近にある道具を駆使しながら、手際よく花を作っていくのです。メンバーの方々も慣れており、おしゃべりしながら作業を続けていました。もしこう



SUMH ニュースレター第40号

した作品が商品化できれば、現金収入として望めるかもしれませんね。

SUMHではこのデイケアの他にもDVやうつのグループ、郊外での訪問なども行っています。しかし燐々と輝くネオンに象徴されるような街中の発展に比べて、こうした地道なNGO活動はなかなか広がることは難しいですね。シェムリアップでメンタルヘルスに対する活動を行っているのは、内戦後から考えてもSUMHだけです。今後もこうした活動が理解を集め、地域に根付いた支援を展開できることを祈っています。

II カンボジア精神保健について

-プノンペンを中心に-

精神科医 吉田尚史

2013年10月6日、錦糸町クボタクリニックで開かれたSUMH理事会に参加する機会をえた。そのさいニュースレターへの原稿依頼をいただいた。テーマは「プノンペンを中心としたカンボジア精神保健」についてというもので、わたしの個人的背景から依頼されたものと思われる。2年ほど遡るが、「ローカルな精神疾患概念」への関心に導かれてプノンペンに1年ほど滞在した。帰国後も関係者と定期的に交流を続けている。

カンボジアでは、和平後の1994年に精神科医の人材育成プログラム（1期10名）が始まった。その後1期生の精神科医が中心となりカンボジア精神保健が展開し、現在では精神科医は40名を超える。精神科専門看護師の養成コースは資金難のために頓挫していたが、今回の総選挙（2013年7月）の結果を待って、2年制の養成コースを新設予定と。精神科医療施設の中心は、プノンペンに位置するクメールソビエト友好病院（通称ロシア病院、以下通称）である。ロシア病院は「公」で唯一の精神科入院病床（8床）と国内最大のスタッフ数（精神科医約10名と精神科専門看護師3名）を備え、全国から受診患者が訪れる。精神医学教育を担当するのは健康科学大学精神医学講座であり精神科レジデント教育（3年制）などを組織する。医学生の精神科臨床実習、精神科レジデント研修は、主としてロシア病院で行われる。一般医や看護師などコメディカルへの精神科研修コースを担当するのは、精神保健国家プログラムである。全国各地で約1週間かけて実施されて修了生には証明書が発行される。政策面では、初の

2013年（平成25年）11月30日（原則的に季刊）正式な精神保健政策である『精神保健と物質依存の戦略計画2011-2015』（Ministry of Health 2010）が発刊された。350の保健センターで精神保健と物質依存の基本業務提供、23の州リフェラル病院で入院を含む精神保健と物質依存の包括的な業務提供、4地域の州リフェラル病院（バッタンバン、コンポンチャム、カンボット、ストウントレン）とロシア病院での心理社会的リハビリテーション業務、1160のうち350の地方自治体でコミュニティに基づく精神保健の業務提供などが、2015年までに期待される成果である。

プノンペンを中心としたカンボジア精神保健について、人材育成、精神科医療施設、政策といった観点から簡潔に述べた。SUMHの活動拠点はシェムリアップ州の州病院と州リフェラル病院にあるが、首都プノンペンにおける精神保健を踏まえることで、より重層的に医療事情を理解できるのではないかだろうか。

* * * * *

SUMH Cambodia

Actual Address:

Mental Health Rehabilitation Center,
in Siem Reap Provincial Hospital,
Mundol Moi, Siem Reap, Cambodia

Postal Address:

P.O.Box 93102 G P O Siem Reap Angkor, Cambodia

* * * * *

**SUMHの会員として、また募金によって
一緒に途上国の精神保健を支えてください。**

【年会費】一般 10,000円 賛助・学生 5,000円

【会費・募金の振込先】

銀行振り込みの場合

銀行名：千葉興業銀行 旭支店

口座名：途上国の精神保健を支えるネットワーク

理事 青木 勉

口座番号：普通 1031181

郵便振替の場合

加入者名：途上国の精神保健を支えるネットワー

ク

口座番号：00170-2-535294

郵便振替は振替用紙に、住所・氏名・Tel & Fax・E-mail・会費と募金のいずれか・SUMHへ一言を明記の上、お振り込み下さい。

* * * * *

SUMH ニュースレター第40号

SUMH日本事務局

〒130-0013 東京都墨田区錦糸3-5-1

錦糸町北口ビル

TEL 03-3812-0736

HP: <http://sumh.org/>

E-mail: info@sumh.org

* * * * *

編集後記

6月2日に開催された理事総会では多くの方にご参加いただきましたことお礼申しあげます。当日はカンボジアSUMHとのSkyape会議・活動報告会が実施され、カンボジアと日本のメンバーで活発な意見交換をすることができ、SUMHの活動に新たな展開を感じられた1日となりました。その後も、月の理事会で再び現地とSkyape会議の実施や毎月の理事会で新メンバーが加わるなど、例年ない変化が徐々にあり、もしかしたら来年度にはSUMHに大きな飛躍があるのではないかと期待が膨らんでいます。そんな今だからこそ、次への飛躍のために組織の基盤をじっくりと固めていかなければいけないと感じている次第です。現地で活動を頑張って継続しているカンボジアSUMHのスタッフの頑張りに負けないよう、日本のスタッフも一致団結して頑張ってまいりたいと考えております。

最後に、このたびは、7月発刊予定だったニュースレターが今月発刊になってしましましたことお詫び申し上げます。次号ニュースレター41号の発刊は年明け1月になります。

篠原 慶朗

「年賀状等の、書き損じはがきを寄付して下さい」
皆様が年末作成した際の、年賀状等の書き損じはがきを寄付お願いします。支援活動に有効活用させていただきます。